



『豊かなモビリティ社会』＝『誰もが安全で自由な移動を享受できる社会』
の実現に向け、はまぐち誠は『自動車ユーザーの視点』に立った制度変更を進めます！

■政策1 「サポートカー限定免許」の創設

高齢者の交通事故発生状況



図出典：警視庁交通総務課統計

- 高齢者の事故は増加傾向（社会問題化）
- 一方、地方では高齢者の移動手段（買物・病院への足）確保も重要

〈はまぐち誠の提案〉

- ⇒ 自動ブレーキやアクセル・ブレーキ踏み間違い防止機能を搭載したサポートカー使用を条件とした、高齢者向けの新たな免許制度を創設
- ⇒ サポートカー購入者に対し、補助金交付/税制の特例を設ける

高齢ドライバーによる事故を減らし、移動の手段を確保

■政策2 任意自動車保険料を所得税等の控除項目に追加

各種保険の所得控除適用の可否

保険種別	控除適用	国民の加入率
生命保険	○	約80%
地震保険	○	約30%
年金保険	○	約95%
自動車保険	×	約90%

- 若者の車離れ対策の一つとして、保有コストの低減は重要
- 20代の保険料は極めて高い（年間24～48万円：政府答弁）
- 生命保険料等は所得控除の対象になっている

〈はまぐち誠の提案〉

- ⇒ 任意保険料も所得控除の対象にしていく

車の保有に係る税負担を軽減し、若者の保有コストを軽減

■政策3 高速道路料金を引き下げる「定額制」の導入

高速道路料金の平均支払額

①年間料金収入	約2.3兆円
②年間交通量	約28億台
①/② =平均支払い額	約800円/台

※平成29年度NEXCO3社決算ベース

- 現行の高速料金は、これまで高速道路の整備（建設・更新等）に要した費用（約28兆円＝国への借金）を、2065年9月30日までに完済できるよう算出
- 今後も高速道路のメンテナンスには財源を確保する必要があり、2065年以降に高速料金を無料化することは実質困難
- 1台あたり約800円の料金で年間の料金収入は確保できる（左図）

〈はまぐち誠の提案〉

- ⇒ 永久に有料化し、料金を引き下げる。
- ⇒ 具体的には、現在の距離制料金（走行距離が長いと料金が高い）を見直し、どこまで利用しても定額制（同一料金、例：800円）を導入

自動車ユーザー負担の軽減、地域経済活性化にも寄与



上記に加え、
自動車関係諸税
のユーザー負担
軽減・簡素化
にも引き続き全力で
取り組みます！



今後10年間で修繕が必要となるインフラの割合

	2023年	2033年
道路橋	約39%	約63%
トンネル	約27%	約42%

図出典：国土交通白書2018「社会資本の老朽化の現状」

今後メンテナンスが必要となる道路等はどんどん増加

燃費向上・電動車普及により燃料課税等の税収が年々減少する中、社会インフラである道路等の予算をどう確保していくか？が今後の検討課題です！